



JSBMR Newsletter No. 5

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-5-15 新大阪セントラルタワー8階

TEL: 06-4806-5656 FAX: 06-4806-5658

第23回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2005年7月21日(木)~7月23日(土)
会 場: 大阪国際会議場
会 長: 大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 教授 西沢 良記
参加費: 12,000円 (学生 5,000円 … 学生証の提示が必要です)
懇親会費: 3,000円

詳細はプログラム抄録集をご覧ください。多数の参加をお待ちしております。

~~~~~ 2005年度の各賞が決定しました ~~~~~

5月に行われた選考委員会・理事会において、2005年度の各賞が下記のように決定いたしました。

【学会賞】 黒川 高秀 (東京大学名誉教授)

【学術賞】

- <内科系> 深川 雅史 (神戸大学) 「腎と骨代謝:Nephrologistからのアプローチ」
- <外科系> 中瀬 尚長 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)
「BMP関連シグナルからみた運動器疾患の局所メカニズム」
- <基礎系> (該当者なし)

【奨励賞】

- <基礎系> 八木 満 (慶應義塾大学医学部整形外科)
「DC-STAMPは破骨細胞と異物巨細胞の融合に必須な分子である」
- <基礎系> 中村 貴 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)
「アンドロゲンの骨増強作用は破骨細胞内ARを介して発揮される」
- <内科臨床系> 濱野 高行 (大阪大学医学部附属病院腎臓内科)
「腎疾患患者のステロイド骨粗鬆症におけるResorption Indexの提唱」
- <外科・歯科臨床系> 佐久間 真由美 (新潟大学大学院医歯学総合研究科
地域予防医学講座リハビリテーション医学分野)
「大腿骨頸部骨折の発生は血清25(OH)Dと関係する」
- <疫学系> (該当者なし)

7月22日(金)13時15分より、総会に引き続いて授賞式、学術賞受賞講演が執り行われる予定です。

2004～2005年度 日本骨代謝学会 会務報告
(2004年11月～2005年5月末)

1) 理事会

2004年度 第3回理事会議事録

日時: 2004年11月26日(金) 15:00～16:30

会場: 千里ライフサイエンスセンター 5階 501会議室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、吉川秀樹、
米田俊之、大園恵一(理事)、山口 朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、田原英樹(第23回学術集会
事務局)、田中弘之(書記)

議事:

2004年度第2回理事会および

臨時理事会議事録の承認(清野理事長)

2004年8月4日に行われた2004年度第2回理事会、および10月29日に行われた臨時理事会の議事録案が提出され、一部(臨時理事会における賛助会員の口数別特典の記述部分)を訂正の上、承認された。

[訂正箇所]

4. 会員数増加に向けた対策について

・賛助会員のさらなる新規入会、および口数の増加を目指す。
また、現賛助会員に対しても、口数に応じて学会の事業に参加する際の特典を設けるようにする(たとえば、学術集会時のランチョンセミナー、イブニングセミナー等の会場・時間帯の選択優先権や、講演会場で休憩時間中に広告を出せるようにする等)。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(清野理事長)

清野理事長より、9月末現在の役員数、会員数および会費納入率について報告があった。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、9月末現在の会計中間報告について説明があった。現時点では、日本学会事務センターの破産に伴う被害額(債権額)が確定していないため、資料にはまだ損失額が計上されていないこと、また、鈴木編集委員長のご好意により、今年度に限り編集事務費(50万円)の支出を見送ること等が報告された。

3. 各種委員会報告

1) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。また、以下の項目についても、次のような報告があった。

ステロイド性骨粗鬆症診断基準小委員会がまとめたガイドラインの英訳をJBMM Vol.23, No.2(2005年3月発行予定)

に掲載するように手続きを急いでいる。(JBMM発行後に、日本語版の小冊子を発行する予定。販売価格については、今後、検討する。)

萬有製薬より依頼を受けて販売したJBMM掲載論文の和訳別刷(1万部)の代金が、近々、学会口座に入金される予定である。

福田商店より依頼を受けたJBMM掲載のCase Reportの和訳別刷(3,000部)の販売についても、出版社と協議の上、手続きを進めている。

11月中旬に、2005年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の申請を行った。

4. 第23回骨代謝学会準備状況について(田原英樹先生)

西沢第23回会長代理

2005年7月21日(木)～23日(土)に開催予定の第23回学術集会の準備状況について、学術集会事務局の田原英樹先生より説明があった。

1日目の7月21日(木)に、リウマチ学会との合同シンポジウムを企画しているため、この日に参加する両学会の会員には、参加費を半額にすることになった。また、逆にリウマチ学会の会期中に骨代謝学会との合同シンポジウムが企画される際には、同様の優遇措置を講じてもらうように要望を出すことが提言された。

2日目の22日(金)のプログラムについても、透析学会との合同企画にすることが可能かどうか、交渉を進めることになった。

また、下記の点について、確認が行われた。

例年どおり、学会賞は理事による推薦とし、学術賞・奨励賞の応募締切日は、演題募集締切日と同日にする。

奨励賞の応募方法は、一昨年(第21回)までの方法に戻す。(応募者が希望する領域を選択するのではなく、受付後に応募者の所属によって領域を特定し、分類する方法を採用する)。

例年どおり、Asian Travel Grantを継続させる。なお、口演発表の際には、該当者を1つのセッションにかためないように配慮することが必要である。

5. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島第24回会長)

川島第24回会長より、先日、電子メールによって各理事に問い合わせたとおり、2006年7月6日(木)～8日(土)に開催予定の第24回学術集会の会場を、都市センターホテルからTFTビル(お台場)に変更したことが報告された。都市センターホテルでは、2会場しかとれないが、TFTビルでは、3会場を並んでとることができるため、プログラム予定内容や利便性を考え、会場の変更は踏み切ったこと等が説明された。

6. 学会誌掲載論文の転載許可について(事務局)

転載許諾の依頼があった1件について、条件を満たしていた

ことから、転載を許可したことが報告された。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(清野理事長)

下記の新評議員の推薦について説明があり、問題なく承認された。

新飯田 俊平 推薦者:小澤英浩、池田恭治
(国立長寿医療センター研究所運動器疾患研究部)

2. その他

2005年度の事業として、会員名簿を作成することが提案され、承認された。住所確認の際に、できるだけ多くの会員の電子メールアドレスを回収することによって、今後は、会員への情報提供をメール配信で行える体制を整えることが提言された。

2004年度 第4回理事会議事録

日 時: 2005年3月4日(金) 16:00~18:00

会 場: 千里ライフサイエンスセンター 20階 2001会議室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、野田政樹、福永仁夫、米田俊之、遠藤直人、西沢良記(理事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、中村利孝(QOL委員長)、松本俊夫(国際渉外委員長)、田中弘之(書記)、山元理恵(事務局)

議 事:

2004年度第3回理事会議事録の承認(清野理事長)

2004年11月26日に行われた2004年度第3回理事会の議事録案が提出され、原案どおり承認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、1月末現在の役員数、会員数および会費納入率について報告があった。

2. 会計報告(福永理事)

福永理事より、1月末現在の会計中間報告について説明があった。近く第23回学術集会補助金(230万円)を西沢会長に送金する予定であること、また、製薬会社からの申し入れによるJBMMの和文抄訳料(84万円)が雑収入として計上されたこと等が報告された。なお、現時点ではまだ日本学会事務センターの破産に伴う被害額(債権額)が確定していないため、資料に損失額が計上されていないことも、改めて確認された。

3. 各種委員会報告

1) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。また、以下の項目についても、次のような報告があった。

ステロイド性骨粗鬆症診断基準小委員会がまとめたガイドラインが、3月下旬に発行されるJBMM Vol.23, No.2に掲載される予定である。英語版別刷の購入について、賛助会員各社に問い合わせたところ、数社より1万部を超える申し込みがあった。

ステロイドガイドラインの日本語版の別刷については、JBMM発行後に作成し、会員へは次号のNewsletterに同封して配布する予定である。また、別刷の販売については、著作権を持つSpringer社に確認を得てから価格等を決定する。

アベンティス・ファーマ社より、ステロイドガイドラインを全文和訳したいという依頼が来ている。

乗松監事がJBMMのサプリメントとして発行準備を進められる国際会議のプロシーディングスについては、骨代謝学会会員にも配布すべきものであるため、その点の確認をとる。

2) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

中村委員長より、使用料を1部10円と定めたQOL評価質問表について、先日、価格設定後に初めて使用の申し込みがあったことが報告された。また、現在、JOQOL 2000年度版のValidityを検証するStudyを進行中であることも報告された。

3) 国際渉外委員会(松本委員長)

松本委員長より、海外関連学会の動きについて、以下のよう報告がなされた。

2006年10月にオーストラリアで開催されるIOFとANZBMSとの合同会議に、日本からもTravel Grantを設けてほしいという申し入れがあった。

今年の6月下旬にIBMSのBoard Memberが改選される予定であるが、当学会評議員の加藤茂明先生が候補者にノミネートされているため、会員には是非とも投票してもらいたい。

また、中村利孝先生より、2008年5月に開催されるIOFの国際会議に、京都国際会議場を会場として正式に立候補したことが報告された。北京、シンガポールが主な競合相手となりそうだが、今年の3月にローマで行われる会議の際に、開催地が決定する予定であること等が説明された。

4. 第23回骨代謝学会準備状況について(西沢第23回会長)

2005年7月21日(木)~23日(土)に開催予定の第23回学術集会の準備状況について、西沢会長より資料に基づいて説明が行われた。

おおよそのスケジュールは確定しつつあり、なるべく広範囲の研究者を呼べるように、引き続き工夫するつもりであること等が説明された。なお、学会の各種会議(理事会、委員会)については、今後調整を行うため、早めに開催予定を知らせてほしい、との要請がなされた。

また、日整会に整形外科認定医のポイント加算についても申し入れを行ってはどうか、という提案があった。

5. 第 24 回骨代謝学会準備状況について(川島第 24 回会長)
川島第 24 回会長より、2006 年 7 月 6 日(木)～8 日(土)に開催予定の第 24 回学術集會を、TFT ビル(お台場)において 3 会場制で行うよう準備を進めており、近いうちにプログラム委員会を立ち上げて、具体的な企画にとりかかる予定であることが報告された。

6. 学会誌掲載論文の転載許可について(事務局)
転載許諾の依頼があった 4 件について、条件を満たしていたことから、転載を許可したことが報告された。

< 審議事項 >

1. 学術賞・奨励賞選考委員について

5 月 20 日に開催予定の 2005 年度第 1 回理事会の前に、学術賞・奨励賞の選考委員会を行う予定であるため、委員長の西沢会長に選考委員の人選を一任し、委員会までに選考の準備を進めること等が確認された。また、これまでにまだ学術賞の応募が 1 件も事務局に届いていないため、受賞にふさわしい人がいたら、是非とも応募を勧めてもらうよう出席者に要請された。

なお、学会賞については、理事会において決定するため、次の理事会までに推薦がある場合は、推薦状を提出することになった。

2. ステロイドガイドラインの日本語版別刷について

編集委員会報告のところでも発言があったように、ステロイド性骨粗鬆症診断基準小委員会によって、3 月号の JBMM (Vol.23, No.2)に掲載されるステロイドガイドラインの日本語簡略版が作成された。内容については、問題なく承認されたため、なるべく早くに発行できるよう、準備を急ぐことになった。

3. 新評議員の推薦について

下記の 2 名の新評議員の推薦について説明があり、いずれも承認された。田中郁子先生については、会員歴が 10 年に満たなかったが、「継続 10 年以上の正会員、またはそれと同等以上の学識をもつ正会員」という条件に該当するとみなされ、承認された。また今後は、若手の優秀な研究者にも評議員になってもらいやすいように「継続 10 年以上」という規定を「継続 5 年以上」に変更することが提案され、今年 7 月の総会に諮ることになった。

吉村 典子(和歌山県立医科大学公衆衛生学)

田中 郁子(藤田保健衛生大学医学部臨床検査部)

4. 会員増加策について

昨年 10 月の臨時理事会において検討された会員増加策について継続審議が行われ、以下のような意見が出された。

- ・ 現在、奨励賞に企業(旭化成ファーマ、中外製薬)から基金を出してもらって賞金を授与しているが、さらに出資企業を募って、優秀演題賞にも賞金を出すようにしてはどうか? その代わりに、出資企業には学術集會の会場内に広告を出せるようにするなど、優遇措置を考える。
- ・ 基礎系の学生および若手研究者を新入会員に取り込めるよ

うに、発生・歯科関連の分野に積極的にアピールしてはどうか。

・ もっとホームページを充実させ、学会活動がよくわかるようにしてはどうか。また、現会員にもメール等を用いて情報発信の機会を増やした方がよい。

5. 賛助会員の優遇方法および賛助会費の増収策について

現在、一律となっている賛助会員の待遇を、口数に応じたものに変更し、増口を促すようにしてはどうか、という提案がなされた。例えば、口数の多い企業には、学術集會時のランチョンセミナーやイブニングセミナーの時間帯・会場の選択優先権を与えたり、広告の機会を増やすなど、優遇措置をとることになった。原則的には、ランチョンセミナー等の開催権や骨代謝学会が所有している著作権の配布などの使用权は、3 口(シルバー会員)以上が望ましいことが確認された。

6. 「運動器の 10 年」への協力について

今年から「運動器の 10 年」の参加団体に対して、会員数に応じて会費(10 万円 / 2,000 名まで)が求められるようになったが、当初、参加を決定した際には、会費の徴収についての承諾がなかったため、次年度以降も会費が必要な場合は、参加を見合わせるようになった。

2005 年度 第 1 回理事会議事録

日 時: 2005 年 5 月 20 日(金) 16:00～18:00

会 場: 千里朝日阪急ビル 14 階 5 号会議室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、野田政樹、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、大園恵一(理事)、山口 朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、中村利孝(QOL 委員長)、白木正孝(臨床プログラム推進委員長)

欠席者:

福永仁夫、遠藤直人、西沢良記、豊島良太(理事)、名和田新(ステロイド委員長)、松本俊夫(国際渉外委員長) 田中弘之(書記)

議 題:

2004 年度第 4 回理事会議事録の承認(清野理事長)

2005 年 3 月 4 日に行われた 2004 年度第 4 回理事会の議事録案が提出され、承認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2005 年 3 月末時点の、役員数、会員数、および会費納入率が報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの投稿および掲載状況について報告があった。また、平成17年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)として、580万円(平成16年度は370万円)の交付が内定された事が報告された。

また、シュプリンガー社との間で製作業務の契約改訂があり、学会および出版社との間で合意を得た旨報告があった。

なお、西沢理事(第23回学術集会長)より会期間中に予定されている国際シンポジウムの記録をMini-Review形式でJBMMに掲載したい旨の申し入れがあり、受理した旨、説明された。

その他、懸案となっている電子投稿・査読システムの導入については、日本学会事務センター破綻のため、進められていない事が報告された。

2) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

特に大きな報告事項はないが、4月1日より個人情報保護法が施行されたことによる、JOQOLの取り扱いについて、注意を要する事ではあるが、新潟大学のIRBを通過しているので、問題はないとの事が確認された。

3) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(清野理事長)

清野理事長より、JBMM Vol.23-2に掲載された、ステロイドガイドラインについて、別刷(英文・和文)を作り賛助企業へ有料での配布を宣伝したところ、各社より予想外の反響があり、すでに1000万円近くの多額の売上げの見込みがある事が報告された。

4) 臨床プログラム推進委員会(白木委員長)

骨粗鬆症データベースシステムの開発について、白木委員長より進行状況および今後の作業について報告があった。また、事業予算の面で本学会からの寄付について申し入れがあった。審議の結果、まず委員会メンバーと学会との位置づけを明らかにし、予算規模の具体的な見直しなどを含めた提案書を理事会に諮ってもらった事が確認された。

3. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島第24回会長)

2006年7月6日(木)~8日(土)に開催予定の第24回学術集会の1回目のプログラム委員会が、本日の理事会に先立って開催された事が報告された。今年度にならぬ、3会場制を前提として準備を進めており、テーマについては、今大会の評判も考慮に入れた上で具体的に決める予定である旨報告があった。

また、基礎の先生が会長をする場合には、臨床系の先生が副会長として協力する体制を作ってはどうかという意見があり、承認された。第24回学術集会については、副会長候補として、遠藤理事の推薦があり、承認された。

5. 第25回骨代謝学会準備状況について(高岡第25回会長)

第25回学術集会は、2007年7月19日(木)~21日(土)に、大阪国際会議場において開催予定である旨報告があった。

6. その他

中村委員長より、3月15日にローマにてIOFの理事会があり、2008年の大会開催地が、北京に決定された旨報告があった。また、2006年10月23~27日にオーストラリアのポートダグラスにて開催されるRegional Meetingの参加について呼びかけがなされた。清野理事長より、若手研究者の参加を促進させるため、学会特別会計より旅費の一部を助成する事について提案があった。

< 審議事項 >

1. 2004年度収支決算について(吉川理事)

吉川理事より、収支決算報告(案)に基づいて決算内容が説明された。ほぼ予算通りに執行されたが、JBMMの和文抄訳料が入ったため、雑収入項目については、予算を大幅に超えた旨説明があった。

2. 2004年度会計監査について(山口監事)

山口監事より、5月16日(月)に、乗松監事とともに事務局内において2004年度の会計監査を行ない、帳簿および伝票類を調査した結果、問題なく処理が行われている事を確認した旨が報告された。

3. 2005年度予算案について(吉川理事)

吉川理事より、2005年度予算案に関する説明がなされ、原案どおり承認された。例年と異なる部分として、今年度のみステロイドガイドラインの別刷販売により大幅な収入見込が発生したため、販売収入および別刷製作について、収支に各1項目追加されたことが説明された。

4. 学術賞・奨励賞の選考について

(西沢選考委員長代理、川島第24回会長)

川島次期会長より、理事会に先立って開催された学術賞・奨励賞選考委員会における審議結果が報告され、いずれも承認された。

また、奨励賞については、今回特例として、基礎形態系の上位者と比べて、基礎機能系の上位者の点数が高かったことから、機能系、形態系の区分をなくして、基礎系として機能系の上位2名に授与する提案があり、承認された。

また、応募者の分類について、応募者が所属する教室(講座)によるのか、あるいは研究発表の内容によるのかがいまになってきているため、分類方法に関する今後の方針については、引続きあり方委員会を中心に審議する事が確認された。

【学術賞】

< 外科系 > 中瀬 尚長

(独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター)

< 内科系 > 深川 雅史

(神戸大学医学部附属病院腎臓内科)

【奨励賞】

< 基礎系 > 八木 満

- (慶應義塾大学医学部整形外科)
 <基礎系> 中村 貴
 (東京大学分子細胞生物学研究所)
 <内科臨床系> 濱野 高行
 (大阪大学医学部附属病院腎臓内科)
 <外科・歯科臨床系> 佐久間 真由美
 (新潟大学大学院地域予防医学講座)
 <疫学系> - 該当者なし -

5. 学会賞の選考について

各理事に推薦を募った結果、黒川高秀先生(東京大学名誉教授)を今年度の学会賞受賞者に選出した。

6. 新評議員の推薦について

山口監事、野田理事より東京工業大学の工藤明先生の評議員推薦があり、全員一致にて承認された。

7. ステロイドガイドラインの販売および転載依頼について

清野理事長より、JBMM Vol.23-2 に掲載されたステロイドガイドラインの別刷について、賛助企業各社より、英文および日本語簡略版とも予想を超える反響があり、特に日本語簡略版は2度も増刷するほど注文が殺到した結果、およそ1,000万円の収入が入る予定である旨報告があった。

これにより、ガイドラインおよび日本語簡略版の作成にあたったステロイド委員会メンバーへ、学会に多大な貢献のあったことから、特別賞を授与することが提案され、承認を得た。

また、数社より、社内の研修用や配布資料として転載を希望する依頼が届いているが、あまりにも酷似している冊子の印刷については、申し入れを断る方針であることが提案され、承認された。なお、アベンティス・ファーマ社より全文英訳の申し入れがあり、内容を確認した上で許可する予定である事が報告された。

8. その他

前回の理事会でも確認したとおり、各メーカーが、学会においてランチョンセミナーを開催したり、学会誌のガイドラインやその他の論文を配布したりする権利は、当学会に最低3口以上(シルバー会員以上)の賛助会員である事が確認された。また、ランチョンセミナーを開催する場合には、学会の日時や場所に関しては、口数の多い賛助会員に優先権があることが確認された。

このことを徹底するために、事務局は常に将来の学会長に、賛助会員の口数のデータを配布しておく事が決定された。

2) 各委員会報告

<第24回日本骨代謝学会プログラム委員会>

日 時: 2005年5月20日(金) 14:00~15:00

会 場: 千里朝日阪急ビル14階 5号会議室

出席者:

川島博行(第24回会長)、西沢良記(第23回会長)、

高岡邦夫(第25回会長)、大園恵一、吉川 秀樹、太田 博明、
 滝川 正春、野田 政樹

欠席者:

福永仁夫、吉澤達也(第24回事務局)

今後の学会予定

第24回日本骨代謝学会

会 期: 2006年7月6日(木)~8日(土)

会 場: TFTビル(TFTホール)

会 長: 川島 博行(新潟大学)

第25回日本骨代謝学会

会 期: 2007年7月19日(木)~21日(土)

会 場: 大阪国際会議場

会 長: 高岡 邦夫(大阪市立大学)

年会費の徴収方法について

昨年度まで、一部の会員に年会費の口座自動引落をご利用いただいておりますが、事務局移転に伴い、現在は郵便振替による会費納入に切り替えさせていただいております。これまでご利用いただいていた先生方にはご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございません。

今後、新たにクレジットカードによる会費納入を受け付ける予定ですので、ご希望の方は下記事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

日本骨代謝学会事務局

TEL:06-4806-5656 FAX:06-4806-5658

E-mail: jsbmr@conet-cap.jp

関連学会の大会開催予定

癌と骨病変研究会

会 期: 2005年11月26日(土)9:30~17:30

(詳細な時間は未定です。)

会 場: 経団連会館

(東京都千代田区大手町1-9-4)

会 長: 松本 俊夫

(徳島大学大学院バイオサイエンス研究部)

生体情報内科学)

大会事務局: (有)グラフィティ

〒107-0052 港区赤坂2-20-2 ザ・エンドウビル1階

Tel: 03-3583-1745 Fax: 03-3583-1741

Mail: jscbd@graffiti97.co.jp

第26回日本骨形態計測学会

会 期: 2006年7月27日(木)午後~29日(土)

(詳細な時間は未定です。)

会 場: 新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ

(新潟市万代島6-1)

会 長: 遠藤 直人

(新潟大学大学院医歯学総合研究科)

整形外科学分野)

連絡先: TEL:025-227-2269, 2272 FAX: 025-227-0782

第1回 国際骨免疫学会議 開催のお知らせ

1st International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems

ホームページ <http://www.aegeanconferences.org/>

(このページの右下の 1st International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems をクリックしてご覧ください)

Early registration and abstract submission deadline: March 15, 2006

骨代謝と免疫学の境界領域として発展しつつある骨免疫学に関する国際会議の開催が決定しました。Osteoimmunology の名付け親である Yongwon Choi らが中心となり、ギリシャのクレタ島で骨と免疫の双方の専門家の学術交流の場を提供する試みを計画しています。免疫異常による骨破壊の研究に端を発した骨免疫学も、多くの免疫系分子が骨代謝制御に関わることが明らかになり、急速に展開を見せています。また、この分野の発展には日本からの研究が大きく貢献しており、世界的にも注目されています。是非日本からの積極的な参加をお願いいたします。

会期： 2006年5月28日 ・ 6月2日

場所： クレタ島、ギリシャ (Aldemar: Knossos Royal Village Hotel)

Organizing Committee
Yongwon Choi, Ph.D., University of Pennsylvania
Steven R. Goldring, M.D., Harvard Medical School
Mark Horowitz, Ph.D., Yale University School of Medicine
Joseph Lorenzo, M.D., University of Connecticut Health Center
Josef Penninger, Ph.D., Institute of Molecular Biotechnology (IMBA)
Hiroshi Takayanagi, M. D., Ph. D., Tokyo Medical and Dental University

Topics
 “Transcription Factors shared in the Osteoimmune System”
 “Comparison of Signals Critical for bone and immune system”
 “Regulation of Hematopoiesis and its interaction with bone”
 “Bone, the immunological memory, and aging”
 “Cytokines regulating the crosstalk between bone and the immune system”
 “Costimulation in the immune system and bone”
 “Diseases in the Bone”
 “Novel therapies”

国際骨免疫会議 日本世話人会	東京大学大学院医学系研究科整形外科学 東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 順天堂大学医学部免疫学 東京大学大学院医学系研究科整形外科学 東京大学大学院医学系研究科アレルギー・リウマチ学 順天堂大学医学部内科学 順天堂大学医学部免疫学 東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科学 東京医科歯科大学大学院分子情報伝達学	中村 耕三 山本 一彦 西岡久寿樹 奥村 康 田中 栄 沢田 哲治 小林 茂人 中野 裕康 上阪 等 高柳 広
-------------------	---	--

お問い合わせ先 第1回 国際骨免疫学会議 日本世話人会事務局 高柳広
 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学
 〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45
 Tel: 03-5803-5471 Fax: 03-5803-0192 Email: taka.csi@tmd.ac.jp

THE JAPANESE SOCIETY FOR PETROLOGY AND MINERAL RESEARCH



JSBMR

SINCE 1967